

ドイツ連邦食料・農業省 最新農林漁業情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 20
2019・8・31

1 連邦食料・農業省：2019年度農作物収穫報告を公表

一干ばつの影響を強く受け収量低下（2019・8・30）

穀物収穫が平均以下一国内畑作戦略は気象変動への適応のために、農業者に行動の選択を示すべきである。連邦食料・農業省大臣クレックナーは、ベルリンで2019年度収穫報告を公表した。同時に大臣は今年のナタネー穀物収穫の暫定結果を提供した。この報告の基礎は、連邦内すべての地域からの分析サンプル農地での確認収量である。この代表的な抽出調査報告について、今年度10 000カ所の畑地が協力した。

重要な要因：

- ◎ 2018/19年生育期間においても、また前年においても既に制限的な要因は、土壌の水分利用の可能性であった。降水量はドイツ国内の多くの地域で、土壌の水分蓄積を充足するために不十分であった。
- ◎ 地域的に大きな差が新たに確認された。特にブランデンブルグ州とザクセン＝アンハルト州において、継続的な水分不足によって、非常に低い単位当たり収量を示した。明らかに前年よりも良かったのは、メクレンブルグ＝フォアポームルン州とシュレーズビッカーホルシュタイン州であった。それぞれの土質と降雨分布が、地域的に著しく収量に差を生じている。
- ◎ ドイツ連邦全域のトウモロコシを含めた穀物の収穫量は、現在の科学水準によると約4 470 tとなっている。これは2018年よりも約18%弱多い。6年間の平均（2013年～2018年までの平均値）は、約3.3%低下している。

- ◎ この前年に対する変化は、部分的に良好な面積当たりの収量に起因する。トウモロコシを除いた全穀物種の平均において、これまで確認されている ha 当たりの収量は 6 830kg で、2018 年よりも 13.1%多い。
- ◎ さらに個々の穀物種の栽培面積の変化もまた、重要な役割を演じている。これは収穫量の多い秋まき穀物が、再び大規模には種された。秋まき小麦の栽培は約 6%、秋まき大麦は約 12%、そしてライ麦が約 23%強増加した。
- ◎ 特にナタネ栽培における乾燥が否定的に影響している。2018 年 8 月末から 9 月初めのは種期に、土壌湿度が極めても少なかった。そのため、大多数の農業者が全くまたは部分的に、ナタネのは種を断念した。さらなる状況は生育した後、または冬の後土を掘り起こさねばならなかった。なぜならば、ナタネでの表土カバーが隙間だらけであったから。その結果、2019 年は約 857 500 ha で 1999 年以来、ドイツで最も少ないナタネ栽培面積が確認された。
- ◎ ha 当たりの平均収量は、3 000kg/ha と失望した昨年の結果よりも、3 340kg に増加した。しかし、2013 年から 2018 年までの平均よりも、9.6%低下している。
- ◎ 同時に、今年全体で 290 万 t 弱のナタネが収穫された。これは前年よりも 21.9%少なく、そして 6 年間の平均よりも 41.7%少ない。
- ◎ 不十分な降水量は家畜飼育経営でもまた、各地で重大な基礎飼料の供給問題を生じた。だがしかし、草地と畑作飼料地から、満足できる刈り取り結果を得ることができた。6 月からの生育は順調であったが、それに続く刈り取りは大部分非常に少ない収量となった。2018 年の問題年から飼料の蓄えの無いことが多いので、大多数の経営が既に今年の収穫の干草とサイロの発酵飼料を家畜に与えている。
- ◎ バレイショとビートについては、干ばつによって収穫見込みが大抵不良になっている。散水されない限りにおいて。具体的な状況はまだ把握されていない。つまり、収穫がまだ開始されてない（ビート）、ないしまだ生育が続いているから（バレイショ）。

- ◎ 果実については、前年の記録的な収量に達していない。甘サ克蘭ボの収量は、2018 年多かった。りんごは前年の大量収穫の後、市場用果実栽培における収量は約 946 000 t、散在果樹草地（訳注・牧草地の家畜の日陰樹、ないし鳥や小動物保護のために植栽されている果樹）の収量は、約 355 000 t 見込まれる。
- ◎ 2019 年産ワインについては、楽観的な見込みである。

2 モンゴルでの対話：気象変動への適応

一政務次官フォヒテルが持続的畑作を一（2019・8・28）

連邦食料・農業省（BMEL）政務次官ハンス ヨアヒム フォヒテルは、2019 年 8 月 29 日から 9 月 1 日まで、モンゴルでの政治的対話のために旅立った。

モンゴルでは、現在 BMEL の双方共同プログラムの領域において、1つのプロジェクトが実施されている。モンゴルの Ulaan Chultem 食料・農業・軽工業大臣（MELL）との対話において、政務次官はドイツーモンゴル共同プロジェクト「持続的な農業」の認知と成果から感銘を受けている。

”我々の大臣はこの 4 年来集中的に、そしてパートナーシップを基礎とした友好関係のもとに、成果ある共同プロジェクトを実施してきた。今年我々は、ドイツとモンゴルとの外交関係 45 周年を祝う。そのため、私は我々のプロジェクトが、さらに 3 年間延長されたことを喜んでいる”と、政務次官が述べた。

そしてそれが補完的な政策を通じて、さらに強化された。現在、環境と気象の分野のテーマもまた、プロジェクトで取り組んでいる。気象変動に対する闘いにおける対策の多くが重要であり、そしてその際、農業が問題解決の一部でもある。

背景：

ドイツーモンゴルの共同プロジェクト「持続的な農業（DMKNL）」

2013 年 4 月以来、BMEL はモンゴル農業の持続的発展を奨励するために、モンゴルとの農業専門対話を進めてきた。変動の激しい大陸性気候にも拘わらず、農業分野はモンゴル経済のために、重要な役割を演じている。国内総生産額の 13%でもって、モンゴル経済に対して第 2 の重要な貢献を果たしている（鉱山業に次いで）。就業人口の約 30%が、農業分野に従事している。

モンゴルにおける伝統的な日常生活の特徴でもある、移動式（遊牧）家畜飼育と並んで、畑作が重要となっている。その際、自然的条件が特別なリスクを孕んでいる。土壌浸食と土壌剥離を防止し、干ばつを克服しなければならない。そのためプロジェクトが重要である。

モンゴル農業の専門一指導者のための職業一継続教育政策、並びに法的、制度的な大枠条件の構築に際して、農業政策上の適切な決定責任者の創設に係る協議は重要である。重点テーマは、種子一品種制度の奨励、畑作における適切な専門的な実践の導入、そして農業における意義多いリスクマネジメントである。プロジェクトは、需要に応じた指導機能の提供、専門知識情報、ワークショップそして研修会を開催する。

また、立法上の草案に対する研究、意思表示または説明文を作成する。例えば、2019年にこれまで法案に対する3つの説明文を作成した。3つのテーマの専門ゼミナールと、4つのワークショップが提供されている。そして専門知識情報システムが構築された。これによって専門知識が、全体で約400の情報伝達者によって蓄積された。

3 政務次官フォヒテルが政治対話のために中国へ

(2019・8・23)

連邦食料・農業省政務次官ハンス ヨアヒム フォヒテルが、2019年8月24日から29日まで、中華人民共和国で政治対話のために滞在する。これについて政務次官が説明した：“連邦大臣クレックナーは、今年6月にドイツー中国の農業貿易のテーマについて、双方向的な対話を行った。私のこの旅の目的は、今中国の同僚とドイツ農産物の新しい輸出の可能性を探り、そして今ある市場参入の障害除去について、対話することである。

この旅の中心点には、中国の牛乳一肉製品並びにドイツの果実と野菜の輸出可能性を据えている。さらに食料安全の分野での共同声明の署名が、計画されている。”政務次官は、中国の農業と農村省（MARA）、市場統制本局（SAMK）そして関税管理本局（GACC）の責任者との対話を意図している。政務次官は、さらに農村地域における生活条件、並びに農業一食料業発展についての構想を創り出すために、Jiangsu省の訪問を公式に行う。肉一酪農工場団体並びにバーデン一ヴェルテンベルグ州の代表者が、Jiangsu省への旅に同行している。

4 北京における園芸一博覧会でドイツ文化デーを開催

—政務次官ホオヒテルが園芸博覧会を訪問— (2019・8・26)

連邦食料・農業省政務次官ハンス ヨアヒム ホイヒテルは、2019年8月25日に北京における、園芸一博覧会のドイツ文化デーのパビリオン総顧問として参加した。ドイツ文化デーに関連して政務次官は説明した：“ドイツの園芸は、北京における園芸一博覧会で最も人気がある。これまで100万人強の訪問者が、我々の園芸を訪れた。

我々は、このEXPOが終わる前に6週間の文化デーでもって、文化的ハイライトを設定した。”同時に我々はEXPO一訪問者に、ドイツの文化的景観の富と多様性の認識を提供した。さらに我々は、持続的な農業と近代的園芸の貢献として、革新的なテクノロジー、ドイツのイニシアチブと手法を紹介した。

背景：

8月19日から26日まで、2019園芸一EXPOでのドイツ文化デーは、多くの講演会が開催されている。EXPO一テーマ「緑の中に住み、より良く住む」のもとに、近代的な園芸の様々な観点で、特に都会的な環境の中において重要性を増している。特に町における蜜蜂の保護が、注目されている。ドイツ文化デーは、増大する都市の中で持続的に生きる価値を形成するために、どのように貢献するかを示している。ドイツの文化デーの間中、音楽的な催しのため、Stammheim音楽協会とAlthengstett民族楽団が招聘されている。EXPO一敷地でドイツの文化が紹介されている。

2019 園芸一EXPOにおけるドイツの園芸

世界的に増大する巨大都市の数を背景に、EXPOでのドイツの園芸が革新的なアイデアと、進歩的なそして近代的園芸をめぐる、ドイツからの緑のテクノロジー、将来を指向した手法を紹介する。1日約8,000人の訪問者でもって、各国の万国博覧会参加の中で、ドイツが最も人気のある国に挙げられている。

ドイツの園芸は、連邦食料・農業省の委託で有限会社「ハンブルグ見本市と会議」によって、企画・運営されている。

2019 園芸一博覧会について

この博覧会は2019年4月29日から10月7日まで、Yanging 県の北京市の都心から北に約75kmのところで開催されている。ここは徒歩で直接、万里の長

城に行ける。

EXPO の敷地は約 960ha の広さで、展示場の面積は約 500ha である。86 の国と並んで中国国内の約 100 の県、地域そして市町村並びに国内外の企業・団体が参加している。

5 実務者一対話 気象変動の中の森林

(2019・8・22)

連邦大臣が 8 月 29 日に森林被害と支援対策について、団体との情報交換のために実務者を招いた。ドイツにおける森林の現況は劇的である。その原因と問題解決は、複雑である。この 10 年来、気象に弾力性のある樹種と、その地域に合った混交林への実際的な森林改造が続いており、これがこれからも目的である。

加えて木材利用は、気象保護と炭素一結びつき（蓄積）によって、積極的に持続的な森林管理に貢献している。多くの緑の職業（訳注・農業に関連した職業）は森林の被害を早急に排除し、さらなる被害を回避すること、そして植林と被害防止を準備するために、今協力し合うことが重要である。例えば森林火災に対して。そのため、連邦大臣クレックナーは、自らの省において既に来週実務者一対話を、国内森林サミット準備のためにこの秋に開催する。

その際、枯死した森林被害木を円滑に片付けること、そして利活用することが重要である。キクイムシの更なる拡大を防止すること、同じように再び森を覆う適切な樹種を決定すること。クレックナーはこのことについて、団体と話し合うこととしている。さらにドイツの森林が気象変動に全体的により強く、適応できること、そしてどのような計画で実施するか。そして連邦国防軍の支援、被害木を貯木または輸送によって円滑に処理すること。

同じく木材加工者も重要である。とりわけ木材の過剰供給による木材市場が、困難な状況に陥る。再植林のため、十分な苗木を準備されるかどうか。研究はどのような示唆をもたらすか。再植林の際、消防署の協力は？これら調整を必要とするテーマが、2019 年 8 月 29 日に議題となる。クレックナー大臣は、森林所有者、林業、自然保護、森林青少年、木材加工、都市一地方自治体連盟並びに狩人協会の代表者を招いている。

この会合は、重要な実務者を話合いの席につかせ、そして支援対策の実施を可能とする。これを通じて財政的な支援資金の意義多い投入のため、共同で必

要な歩みを策定すべきである。

各団体の提案は、2019年9月25日の国内森林サミットに組み入れられる。
クレクナー大臣は、全ての重要な関係者をベルリンに招く。各州が実施する具体的な内容について、ここでの成果一行動サミットで議論されるべきである。支援資金が頼りになるよう、早急に現地に届けるべきである。

2019・8・30 訳

青森中央学院大学

中川 一徹